

# 福井県退教通信

編集・発行所  
福井県退教職員会  
郵便番号 910-8544  
福井市大手2-22-28  
福井県教育センター内  
電話 (0776)23-9191  
第56号

## 好縁社会に希望を

副会長 新門 潔



最近の社会的風潮として、コミュニティの崩壊がある。コミュニティとは平たく言えば、集まり、仲間、「縁」である。集団から個へという社会の流れの中にあつて、至極当然の事なのかもしれない。

身近なところでは、地域コミュニティの崩壊、地縁の崩壊である。地縁とは、地域(集落、村、区等)内での仲間である。このような各種の自治活動に象徴される集団では、形式的にはコミュニティがあつても会員同士の結びつき、仲間意識はそれほど強くない。何故なら、地域内における共同活動が少なく、娯楽の多様化によって、地域内で完結する必要もなくなってきたからである。要はコミュ

ニティの必要性がなくなつてきたのである。

このような現象は大人社会だけではない。子ども社会でも、地域の中で群がって遊ぶ姿をほとんど見かけなくなった。少子化や遊の室内化したということもあるだろうが、ここでもコミュニティの崩壊が始まっている。

次に血縁の崩壊である。血の繋がった家族があつても、核家族化という言葉があるように、親子二世帯同居ということ自体が珍しい。子どもが結婚すれば新居を持つというのが定番になりつつある。通える範囲で、親子別居と言うのが理想だそうである。理由としては、仕事の関係とか世代間の考え方の乖離が考えられるが、これも一種のコミュニティの崩壊、血縁の崩壊ではないだろうか。最後は、職場におけるコミュ

ニティの崩壊、職縁の崩壊である。職縁とは、職場や職業を通じて成り立つコミュニティのことである。企業の親睦会や労働組合などがこれにあたる。職縁は、企業の業績を向上させ、組織の要求を実現する手段として有効なはずだが、今は、如何に働きやすいか、長時間労働はないか、個人的な欲求を満たせるかが問題なのである。親睦会と言いつつ、上司に気を遣つてまで参加するのはどうかか本音なのである。

では、この現状を打ち破るにはどうするか。人間は元来社会的動物であり、潜在的にコミュニティを必要としている。独りでは生きてはいけない。地縁、血縁、職縁に替わるものとして、「好縁」という言葉を使った人がいた。好縁とは、好きなことに同じように興味を持つ者が集まってコミュニティを形成する。興味や欲求を同じくする者が集まれば、仲間意識や絆は強く、深くなる。なぜなら、コミュニティ形成の欲求が、個の欲求と一致しているからである。

コミュニティへの参加のルールは一つ、求める興味や欲求が同じかどうかで決まる。ここに、コミュニティ崩壊を回避するヒントが潜んでいるような気がしてならない。

### 南紀を巡る...

## 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」と南紀勝浦温泉

1. 期日 5月19日(火)～20日(水) (1泊2日)
2. 行先 和歌山
3. 費用 43,000円(予定) 退職互助会の宿泊利用補助券も使用できます
4. 募集 80名(先着80名とさせていただきます。早めにお申し込みください。)

参加希望者は3月31日(火)までに〒910-8544 福井市大手2-22-28 県教育センター内 県退教宛 ハガキで申し込んでください。  
※氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号を記入のこと  
参加者には4月中に資料を郵送します。

1	5月19日 火	福井各地(越前大野駅6:00～敦賀駅8:15ごろ)＝(北陸・伊勢道)＝尾鷲(昼食)＝那智の滝(高さ133m日本一の大滝)＝熊野那智大社(参拝)…那智山青岸渡寺(西国三十三ヶ所第一の霊場)＝熊野古道「大門坂」ウォーク(約30分)＝南紀勝浦温泉(泊) ♪那智山と熊野灘を眺望する名湯
2	5月20日 水	ホテル(8:30)＝志古～(静峡めぐり)～志古(昼食)＝熊野本宮大社(全国4700社を超える熊野神社総本宮)＝谷瀬の吊り橋＝橿原＝(京滋バイパス・北陸道)＝福井各地(敦賀駅18:45～越前大野駅21:00ごろ)

※ お食事は1日目昼食から2日目夕食(弁当)を含みます。  
※ 交通状況や施設・機関の都合により記載時間、行程に変更が生じる場合があります。

2020年度  
親睦旅行  
ご案内



## 「生きているという実感」

福井支部 山本 利幸 (60代)

退職した今の生活の中でも、自分の力で生きているという実感を持ち続けたい。そのために、登山とトレイルランニングを続けている。この2つの共通点は、障害物や自然の変化に対応して登る(走る)緊張感、過酷なルートを登頂(完走)した時の達成感であろう。もちろん、そのために日頃の健康管理やトレーニングは大切であることは十分承知しているが、その点だけは自信がない。(笑)

いつまでも楽しく健康であるために走り、登る。いい汗をかいた後は、温泉に飛び込み、キンキンに冷えたビールで乾杯!だから、これからもやめられない。

## 「新米じいさん保育士です」

三方支部 内田 雅文 (新入会員)

50代で一念発起して通信教育で学び、保育士資格を取得しました。受験会場では試験監督に間違われ、町の採用面接では「本気ですか?前代未聞ですよ」と驚かれながら、4月から非常勤保育士として園児と一緒に学んでいます。

先日、おもちゃの取り合いでもめている友達に、「かわりばんこに使うんやで」と言った5歳児をほめたところ、「だって私、5年も保育園におるもん」と言われました。ごめんなさい、私60年も生きていますけど、あなたから今後も学ばせてもらいます。

## 「IT終活」

大飯支部 柿本 治 (70代)

人間、興味有ることなら何の苦労も無く理解が出来る。私にとっては、それがIT関係であり、高校生の孫が「こんな年寄りはいないで」と褒めてくれるのが、最大の喜び。

家電量販店が直せない知人のパソコンを、何台も直してあげた。インターネットを楽しみ、自分でもホームページやブログを運営し、InstagramなどのSNSも楽しむ。

買い物の殆どは、ネット通販や電子マネー決済で済ます。

そんな私に、妻が「貴方が居なくなったら、ネット遺産はどうなるの?」と眩くので、IT終活に必死の毎日だ。

## 「無理しない」しかし「怠けない」

鯖江支部 今立 善教 (80代)

退職して20年、趣味として1人でも出来る絵を描くこと(日本画)と、仲間と楽しくするテニス(硬式)を続けています。

移りゆく四季の変化を楽しみ、精一杯生きている草花に勇気づけられ筆をとっています。また、60年以上色々な世界で生きてきた人達とプレーし、語り、酒を酌み交わす喜びは何事にも代え難い私の宝物です。

これからも、「無理しない」しかし「怠けない」毎日を健康で生きていきたいと思う今日このごろです。

### 学校の現状と課題

## 「憧れ」の感染

福井県教職員組合副執行委員長

嶋本 享恵



この夏、分会訪問で20年ぶりに出会った教え子から「先生

と小学校で英語の勉強をしたことが忘れられなくて教師になりました」と伝えられ、涙が出そうになった。英語専門ではない私は、とにかく自分が楽しんで授業をしよう、そして、何とかして英語でALTとコミュニケーションを図ろうと奮闘していたことを記憶している。

昨年度の公立学校教員採用選考試験の実施状況調査(文科省)によると、受験者は5年連続で減少しており、それに伴い競争倍率の低下が続いている。平均競争倍率は2000年度にピークを迎え13.3倍となったが、そこから年々下がりが続いて、昨年度は4.9倍にまで下がった。福井県も同様、2008年度には12.5倍あった平均競争倍率が昨年度には3.8倍という状況だ。教員志望者が民間企業に流れていることや、長時間労働など学校の勤務環境の悪さが、志望者の教員離れに拍車をかけていると言われている。一体どうすればいいのだろうか?

わたしが教師を志した理由の一つに教育実習でお世話になった先生との出会いがある。慈愛に満ちた先生の表情や子どもたちを納得させる言葉のマジックに圧倒された。私も数年後にはこの先生のようになりたいと強く思った。

教え子や教育実習での恩師との出会いに

を  
きる  
すばらしい!

**「菊と俳句作りを楽しみに」** 三方上中支部 竹内 潔 (80代)

退職してから28年、今年米寿を迎えました。菊作り、俳句、ゴルフ、ソフトバレー等、欲張った楽しみ方をしてきました。国立若狭湾少年の家での Cutter ボランティアとして、指導を20年務めることもできました。

今では、呆け防止のために、菊作りと俳句を、そして、読書を趣味として続けております。菊作りは、3本立て・7本立て・だるま作りを、俳句は月2回句会に参加し、若い仲間と楽しんでいます。今でも元気に過ごせることは、ありがたく感謝でいっぱいです。 **子と孫に 米寿の祝い 菊の束**

**「今を生きる」** 敦賀支部 佐々木 與栄 (70代)

退職して早10年。「昔はよかったなあ」と懐古の昨今です。

今、三つの退職教員関係の役員をしていますが、いずれも新規加入者の入会拒否が悩みの種です。現職の時にはあれだけ熱心に働いていた人でも、勧誘すると「忙しいので入りません」の一言で断られてしまいます。

職域で構築した人間関係が地域では必ずしも通用しません。

私は、少しでも諸先輩や後輩の役に立つならという思いで、役員として今を生きています。

**「野菜づくり1年生」** 南条支部 澤田 稲子 (新入会員)

退職前から始めたいと思っていた野菜づくりにはまっています。

畑の一面にオクラ・ピーマン・ナスを植えました。順調だったのは種から育てたオクラだけで、他の2つは苗を植え付けたので楽勝！と思ったら大間違いの大苦戦でした。背が伸びない、枯れているような葉、葉ばかり茂っている等々。畑の先輩にアドバイスをもらいながら試行錯誤の末に、ようやく9月にナス、10月に入りピーマンがいくつも実をつけました。待ち続けただけに喜び百倍です。おすそ分けできるまでに実り、幸せも一杯です。野菜の声を聞きながら、これからも奥の深い野菜づくりを続けたいと思っています。

**「地域のためにお手伝い」** 今立支部 内田 嘉寛 (60代)

時間にゆとりができたこともあり、この2年間、農家組合長となり、水稻生産実施計画の取りまとめ、電気柵設置等の鳥獣害対策、水稻無人ヘリコプター共同防除等に取り組んでいます。周りの農家の人たちは採算を度外視し、農業や地域の環境保全等に取り組んでいますが、過疎化、耕作放棄地の増加、鳥獣害対策の一層の必要性など、農山村の厳しい状況を痛感します。

来年度、再来年度は、住居のある地区の自治振興会の役員として地域活性化のお手伝いをしながら、自分のできる範囲で、田畑のある集落の環境保全にも取り組んでいきたいと思っています。



**ご協力ありがとうございました。**

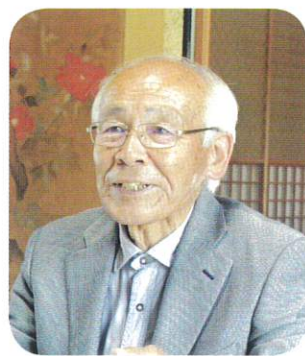
「ユニセフ募金」	合計	24,989 円
「教育請願署名」	合計	7,785 筆

ご協力で心から感謝申し上げます。  
 なお、署名は、昨年より2,400筆あまり増え、11月27日に県議会に手渡し請願いたしました。

共通して言えるのは「憧れ」である。教員離れにストッパーをかけるのは、紛れもなく私たち自身、教職員の姿である。子どもたちの前で生き生きと楽しんで働くことが、「憧れ」を誘う。青山学院大学の鈴木宏昭さんは、「憧れの人に焦られることが、学びの意欲を生み出す」と述べている。多忙な教育現場で、疲労困憊した表情で子どもたちの前に立つ教職員。これでは子どもへの学ぶ意欲は決して高められない。教員離れにも拍車がかかる。「憧れは教育を救う」のである。そのためにも教職員が笑顔で働ける労働環境が必要不可欠である。

組合の専従になって半年が過ぎた。退職教職員の皆様が活動している場面を何度も拝見した。心から楽しそうに、ワイワイと活動している姿に、羨ましくなった。先輩の姿に、わたしの退職後の姿を重ねてみる。「憧れ」は感染するのである。

佐々木誠さん (丹生支部)



(現職時代の思い出)

新卒で大野の勝原小へ赴任したときは、4、6年の複複式。授業の仕方ですら随分悩み悪戦苦闘

しましたが、子どもたちは勉強の仕方を身につけており、協力し合いながら学習を進めてくれました。

その後、地元中学校で社会科を指導。社会科は暗記する教科という意識が強く、学習も受け身になりがちです。そこで『公民的分野に於ける新聞資料の活用』というテーマで、十年間授業づくりに取り組みました。新聞記事を利用したスクラップし、OHPを利用して生徒に提示。記事についてのスピーチや意見交換の場を取り入れたことは、社会への関心を高め、さら

には表現力を高めるのにも効果があったと思います。

(退職してからのこと)

子どもの頃から、鯉は身近な存在でした。40数年前、偶然「みどり」色の鯉が出現した頃から、色々な錦鯉をつくるという夢を抱くようになりました。

退職後、早速、減反で水張りにしていた田を掘り下げ、裏山から何百本もの竹を切り出して擁壁とし、2年がかりで2面の野池を完成させました。山から流れてくるきれいな水の恵みを生かし、庭にも池を作りました。そこには性別や大きさを分けた

お二人気ですか！

年齢を重ねても、今なおいきいきと活動されている方を訪問し、長寿や豊かな生き方の秘訣についてお話を伺ってきました。

(訪問者・編集委員)

増永貞子さん (坂井支部)



(現職時代の思い出)

新任の時に芦原大火が起り、子どもの確認やスコップを持っての後始末。紙を始末した

り封筒を裏返したりして再利用。それらが主な仕事でした。担任になってから大事にしてきたことは、『教師であると同時に調教師であるべき』という思いです。心や体を傷つけることや命に関わることは絶対に許さない。この点については厳しく指導してきました。

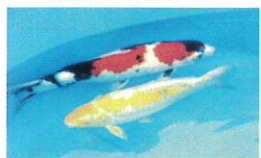
文部省から海外へ派遣されたことも、大きな思い出です。新しい世界を見聞することができてプラスになりました。

また、社教主事として勤めた4年間は、保育所から老人会・青年会まで関わらせていただき

ました。日夜忙しく、土日も無し。我が子も小学生という状況の中で勤められたのは、社教主事を経験していた主人の理解があったからだと思えます。上から目線ではついてきてもらえないなど、大変な目にも遭いましたが、教室だけに居ては分からないことを学ぶことができました。その中で、いろんな人との繋がりがもでき、今でも交流があります。

(今の楽しみ)

三味線と長唄を長年してきました。『三国節保存会』で30年近く活動し、東京や大阪へも演



平成22年度県錦鯉品評会

優勝 変わり鯉60部 準優勝 昭和三色70部

鯉を放しています。養殖を始めて20年。餌やり、水の管理、病敵対策、外刈り等の作業の中で、鯉の泳ぎ方や食欲の変化、寄生虫の有無奏に行きました。

特に、三味線は小さい頃からお師匠さんについてお稽古し、今も続けています。教え子が勤める小学校のクラブ活動でも教えました。子どもは上達が早いですよ。今秋は丸岡の文化祭にも出演しました。三味線で指を使うことは、ボケ防止にも繋がるようです。

また、月に2回『朗読の会』に参加しています。子どもたちへの『お話会』にも出かけています。長唄と同じで、両方とも腹式呼吸でなければ通る声は出ません。15分で読み切れる本を探すのはなかなか難しいですが、子どもたちも若い先生も童話を知らないことが多く、一生懸命聴いてくれます。

等を観察する事が日課です。私の足音を聞きつけ、餌をねだる鯉、頭を撫でさせる鯉、警戒心が強い鯉等、個性豊かです。鯉も家族と同じなのです。

思いどおりの鯉を池で見つけた時の喜び、作業中に声を掛けてくれる人とのふれあい。世話の後、すくと座って鯉を眺めていると、心が癒されます。

毎年、各地で品評会が開催されます。私も、一生に一度は、納得のいく名鯉を作りたいと工夫を重ねています。

(若い人に一言)

指導法でも教材作成でも、継続的にやれば何かものになります。授業で勝負する精神を忘れずに、改善しながら工夫していつてほしいと思います。

(若い人に一言)

子どもの成長のために言わなければならぬことを、親に遠慮しないで、きちんと伝えてほしいと思います。



坂井市民文化祭にて

# 地域の歴史を伝える 『越前大野かたりべの会』

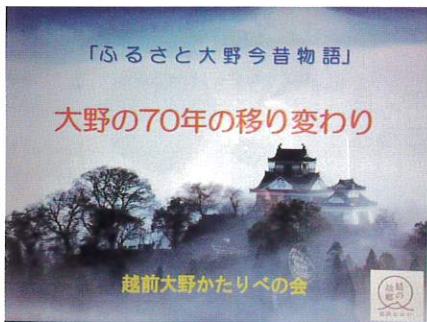
大野支部 橋本 幹雄

私は『越前大野かたりべの会』に所属して、地区のサロン、デイサービス施設、敬老会、学校などに出かけて古いなつかしい写真を使って「むかし語り」をしています。

この会は、平成23年、過疎化が進む地域では、昔から受け継がれた歴史・伝統・文化を記録した写真・映像等が消滅している旨を、ある地区の区長が市長に進言したことに始まります。これをきっかけに市教委では「ふるさと大野今昔物語事業」を立ち上げました。

私は、平成24年5月から一年間生涯学習課嘱託職員として、昭和60年頃までに大野市で撮影された市民の暮らしや文化が分かる写真、なつかしい風景の写真、旧西谷村・五箇地区・和泉地区を重点的に集めました。その後、市内各地に広め一年間で集めた写真は約2600枚でした。

写真収集のために旧大野郡であった石徹白や、九頭竜ダム建設のために県外に移住した人を訪ね、岐阜県や名古屋市ま



で取材に出かけたこともありました。一時的にお預かりした写真はデジタル保存し、写真については聞き取りが出来なかった場合は、いろんな文献資料から解説を作成するのに苦労しました。後任の嘱託職員の方が、写真収集をする傍ら、敬老会や地区のサロンで写真を使っている「むかし語り」をするようになりました。この「むかし語り」が好評だったので、市教委は平成27年に「大野市かたりべ養成講座」を開催し、翌年には、『越前大野かたりべの会』が発足しました。会員それぞれが、五千数百枚の写真からテーマを決めて一時間程度の作品を制作しています。その中でも、「大野の70年の移

り変わり」を希望される団体が多く、先人のいろんな分野における苦勞や生活の知恵、なつかしい風景を楽しんでいただいています。

現在、小学校4年生の「大野市のうつりかわり」の道路・交通編を社会科分科会の先生方と連携して制作中です。ふるさと教育の推進に役立てばと願っています。



# 水晶学者 『市川新松先生』 市川鉦物研究室』を伝えて

武生支部 宗近 惣助

市川新松先生は、明治元年生まれの福井が誇る世界的に有名な水晶学者である。先生は、師範学校受験の失敗や水晶の研究を大学の教授に排斥される挫折をバネにして、独学で水晶の研究を重ね、さらに、日本の学者が認めてくれないな

らば、外国の学者に認めてもらおうと、外国語を約半年でマスターし、世界的に有名な学者となった。

平成16年3月、越前市北新庄地区自治振興会総会が開催されて、文化教養部(部長に就任)の活動として「子どもたちに伝える文化事業―市川新松先生の伝記作成―」が承認された。平成18年3月に、『独学の水晶学者市川新松・市川鉦物研究室』の冊子を発行し、地区の全家庭、北新庄小学校、万葉中学校を始め各学校、公民館、図書館に配布した。

同年5月、越前市で「市川鉦物研究室活性化事業」として、「水晶の宝庫市川鉦物研究室を整備し、広く見学に生かす」「世界的

水晶学者市川新松の失敗をバネにした生き方を学び、青少年の育成に生かす」の事業が承認された。これにより、研究室は照明が設置されるなど整備が進んだ。さらに、先生の紙芝居を作成し、夢と向上心を持って生きた生涯を青少年に伝えるために、北新庄小学校で生き方を学ぶ教室を開催した。この冊子と紙芝居をもとにした小学校等での講話は、14年間続いている。

また、「市川新松先生・市川鉦物研究室顕彰会」を設立し、6年生に対して「市川新松科学賞」を授与することにした。

なお、市川鉦物研究室収蔵標本は、2012年9月19日に、国登録記念物として認定されている。



## どの子の夢もかなえたい

武生支部 松原 香代子



「こんにちは！」

「こんにちは、お帰り～！」

ここは、『オラ・バモス』（ポルトガル語で「さあ、がんばろう」）、'18年10月に立ち上がった外国籍児童・生徒のための学習支援教室である。

放課後の学習会には様々な顔の子どもたちがやって来る。退職教職員・市の日本語指導講習受講者・仁愛大学の学生さんで宿題を中心とした支援を行っているが、子どもたちの学習レベルはそれぞれ様々で、手さぐりの活動を続けてきた。

十分なコミュニケーションが取れない中、とにかくどんな時にも私たちは、子どもたちと向き合い、「大丈夫だよ！」との思いで問題

解決することを厭わなかった。

1年経った今では、『オラ・バモス』は、子どもたちの基地になりつつある。

しかし、ここからの船出には厳しい現実がある。中3ともなれば、進路を決めざるを得ず、大方の子には、定時制という選択肢しかない。

そんな中、今、衛生看護科を目指しているSさんがいる。彼女の夢は、看護師。目下のところ、彼女の夢が私の夢でもある。つないだこの子の手を放さないでおこうと思っている。



## 健康長寿の秘訣

小浜支部 岡 陽子

退職して16年、「後期高齢」と呼ばれ「国保」からも外されて、少々疎外感を味わっている、近頃の私。

退職後に始めた趣味を通じて、新たな友達もそれなりに広がってはいるが、運命共同体で長年苦勞を共にしてきた職場の仲間との絆は、また格別だ。

毎週木曜日、(とはいってもできない日もあるが)、元教員だった4人が我が家に集まり、昼食を共にし、コーヒーやお菓子でくつろぎながら、しゃべりまくり、笑いまくりの数時間(平均4時間くらいかな)を過ごしている。

始まりは15年前、シルクロードへの旅がきっかけ。同時に同じ学校だったことはないが、個々にどこかでいっしょだったことのある4人が、総勢13名の旅行団に参加していた。



以来、15年間この木曜日の会は続いており、その間アジア、ヨーロッパなどを10回旅し、その都度絆は深まっていった。

現在72歳から75歳の4人、15年の歳月は、それぞれの人生に少なからず変化をもたらしてきたが、幸いにも皆元気だ。

話題は、政治・経済・教育などの時事問題から、大好きなウワサ話、家族の心配事や新聞のお悔やみ欄のことまで種々雑多、好き放題のおしゃべりが健康長寿につながっているのではと、この会のあり方を正当化している。



### 老いを生きる

丹生支部 大橋 美智子

主人の病気もあり定年3年を残して退職。以来27年の月日が流れ、介護の傍ら趣味でいろんな友人もでき何とか喜寿を迎えました。その中での思いを短歌に詠んできましたので、私の第二の人生を推察していただければ幸いです。



- ・病む夫(つま)を見舞う孫等はてんでんに頭撫でるは握手をするは
- ・病室の窓の真向に横たはる文殊の峰に今日も雲浮く
- ・穏やかに旅立つ夫の目尻(まなじり)に一筋光る涙の跡あり
- ・孫の手で点火されたる精霊(しょうりょう)の舟は波間に見え隠れしつ
- ・鳶鷗鳥アオ鷺飛び交いて港の朝はしらじらと明るく
- ・寒戻る日々続きたる道の辺に姫踊子草の群れて咲きをり
- ・日常のプライバシーを失ひし被災地の人人如何ばかりかと
- ・柔らかき枯れ葉の床を立ち上がる猩猩袴の紅愛らしき
- ・楽しみはポストの窓より毛筆の友の絵手紙見つけたる時
- ・美しき花の姿をとどめおく押し花の枝生き甲斐とせむ
- ・頂きしサラダ菜の葉に潜みたる小さなで虫角立て歩む
- ・グランドの仲間と精出す草刈りに秋菝の群れまわりて飛ぶ
- ・とりどりの牡丹三輪抱え来て友は花の香残して去りぬ
- ・「歌う会」立ち上がりたる老人会懐かし曲に声弾ませる
- ・洗い干す冬着ゆらりと風に揺れ五月の窓辺に肩触れ合いぬ
- ・何時何処でいかなる検問受くるとも慌てぬドライブ誓う正月
- ・この月も三十一文字に集いたる歌友の心根見えて親しき
- ・「道(どう)」という名の域までは至れねど友と親しむ「小路」はありぬ
- ・人は皆石ころ道を踏みてこそ平らな道の有難さを知る

## つながり

### 繋がる活動を

坂井支部 牧野 恵子

「吉田東篁の橋本左内への師弟愛について」元福井大学教授前川幸雄氏の講演を聞き、強く思ったことを記す。「学は勉めて励むべく、しかし以て急にすべからず。」学問の達成を焦って、性急に進める者に失敗が多いと、左内に諭した東篁の手紙の解釈を読んで、私の心に強く刺さった。

今年は読売書道展や日展などに、李商隱の七言律詩で応募出品した。

合唱指導や、華道、書道と取り組み、師範としても携わる中で「名譽利益を求めず、順序正しく務め励み、日々に、

月月に進めば、賢明な境地に到達する」という東篁の言葉が、上達を焦る気持ちに戒めを与えてくれた。

どの分野も私の中で、生きて繋がった芸術であり、それらを高める活動は、心を研ぎ健康に繋がっている。

今年、今川節ペチカ合唱コンクールが開催される。丸岡町出身の作曲家の作品を学校や公民館で歌い広め、継承する活動も、私のライフワークとして大切にしたいし、後継者へバトンを渡しながらか、彼の200曲近い作品の音源化も実現させたいと願っている。



# 県退教ミニギャラリー作品より



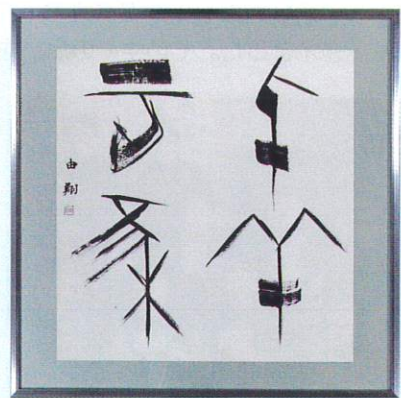
手芸

「柿渋塗りの箱」  
絵手紙の会の皆様



花

「蘭・カトレア3種」  
乾 昭治 氏



書

古代文字「千羊雲集」  
木村 由紀子 氏



手芸

「ちりめん細工」  
中東 康子 氏

手芸

「クラフトバンドの  
かご 2種」  
小西 のぶ子 氏



絵手紙

「東大寺戒壇院の四天王」  
荒島 典子 氏

◎絵画・写真・工芸品・手芸品・書・短歌  
俳句等お気軽に出  
品ください。ご連  
絡は県退教へ。

◎心に残る作品が出  
品されています。  
近くへお越しの折  
はぜひご鑑賞くだ  
さい。



## 会員物故者氏名(敬称略)

(令和元年10月30日現在)

謹んでご冥福をお祈りします。

清水 澄郎	89	藤 白崎	93	池 田 欽一	96
坂井 郁子	82	森 良皓	88	東 義生	82
福 田 郁子	82	智 恵子	88	池 田 欽一	96
浦 山 哲夫	90			東 義生	82
勝 山 支部				池 田 欽一	96
福 田 支部				東 義生	82
坂井 支部				池 田 欽一	96
大野 支部				東 義生	82
浦 山 支部				池 田 欽一	96
勝 山 支部				東 義生	82
福 田 支部				池 田 欽一	96
坂井 支部				東 義生	82
木下 須美恵				池 田 欽一	96
田 村 貞男	93			東 義生	82
村 田 芳子	80			池 田 欽一	96
中 野 梅子	80			東 義生	82
福 井 支部				池 田 欽一	96
出口 耕造	94			東 義生	82
高 島 純孝	94			池 田 欽一	96
山 田 昭雄				東 義生	82
新 郷 一郎				池 田 欽一	96
端 一 郎				東 義生	82
端 トキオ				池 田 欽一	96
南条 支部				東 義生	82
三田村 一弘	78			池 田 欽一	96
三方上中支部				東 義生	82
百 田 泉治	81			池 田 欽一	96
小浜 支部				東 義生	82
川 端 はな子	93			池 田 欽一	96
松 原 絹枝	91			東 義生	82
加 藤 正春	94			池 田 欽一	96
今立 支部				東 義生	82
仲 下 寛治				池 田 欽一	96

## 編集後記

ある人のお話の中で、人生を豊かに生きるヒントとして『無財の七施』という言葉が心に残りました。

その意味は、お金をかけない七つの行いをさし、①優しい眼差し、②なごやかな顔、③優しい言葉づかい、④温かい心、⑤心のこもった行動、⑥進んで席をゆずる、⑦住いをきれいにということ。なんだか一つぐらいはできそうに思えました。

会員の皆様がつながり合って、いきいきと暮らしていくために、一つでも参考になればと思います。

新しい年が穏やかで心豊かな年となりますように。

(福田玲子・法山寿子・松枝恵子)